

令和5年度 第8回石狩市浜益区地域協議会議事録

【日 時】 令和6年 3月14日(木) 18:00~19:20

【場 所】 浜益コミュニティセンターきらり

【資 料】

- 1) 会議次第
- 2) 浜益ベースチームのこれまで
- 3) 2月1日開催の説明会開催概要
- 4) 3月28日説明会開催案内
- 5) 地域自治区から地域自治へ

【出席者】 9名(14名中)

役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠	役職	氏 名	出欠
委員	渡邊 隆之	○	委員	渡邊 真奈美		委員	細田 幸男	
委員	木村 武彦	○	委員	羽立 裕子	○	委員	徳田 和之	○
委員	岡本 俊介		委員	坂本 賢哉	○	委員	柿岡 奈々絵	○
委員	鳴海 翔		委員	笹森 仁美		委員	久慈 麻結	○
委員	佐藤 晃一	○	委員	徳地 克実	○			

(支 所) 高橋支所長、開発市民福祉課長(併 浜益生涯学習課長)

伊藤市民福祉課保健福祉担当課長(兼 はまます保育園長、浜益国保診療所庶務課長)

(本 庁) 幸田厚田浜益担当課長

(事務局) 木澤課長、佐藤主査、柿崎主査

(地域おこし協力隊) 多賀谷隊員

(NPO法人 ezorock) 草野竹史、石田翔、渡辺光咲

【傍聴者】 3名

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 報告事項
 - ・NPO法人 ezorock より「浜益ベースチームの取り組みについて」
 - ・令和6年度地域おこし協力隊の応募状況等について
 - ・2月1日開催の区民説明会の内容について
- 4 協議事項
 - ・今後の地域のあり方に関する意見交換
- 5 その他
- 6 次回の開催日程について
- 7 閉 会

1 開 会

【事務局】

ただ今から、令和5年度第8回浜益区地域協議会を開会いたします。

2 会長あいさつ

【渡邊会長】

— 渡邊会長あいさつ —

【事務局】

本日の会議は14名中9名出席と過半数に達しておりますので、成立していることをご報告いたします。

3 報告事項

【渡邊会長】

報告事項に入ります。NPO法人 ezorock と多賀谷協力隊員から「浜益ベースチームの取り組みについて」説明をお願いします。

【NPO 法人 ezorock 石田 翔】

NPO 法人 ezorock 浜益ベースチームの3名で発表させていただきます。発表の流れは、まず過去編と現在編と未来編に分かれておりました、まず過去編から、「浜益ベースのこれまで」について報告させていただきます。浜益ベースってそもそも何なのかというところからなんですけれども、浜益ベースの生い立ちは、2009年の総務省が管轄していた「田舎で働きたい！」事業がきっかけになります。こちらで、都会に住む若者と浜益のつながりを作るということでできたものです。

それから少し時間が空いてしまうんですが、2018年にコープさっぽろと連携した、福島の子ども受け入れプロジェクトを行いました。こちらはですね、3.11で被害を受けた福島県の子どもたちを実際に浜益に招いて、子どもたちの自然の中での学びだったり、育ちを支援することを目的に実施しました。また、こちらの開催によって福島の子どもたちのストレスを少しでも緩和したいという気持ちもあって行いました。こちらは実際に港をフィールドワークしているときに写しました写真を資料に掲載しています。

この翌年の2019年に、現在浜益ベースとなっている建物の整備が始まりました。建物を借りる前までは、日帰りだったり、民泊に宿泊させていただいたり、コミュニティセンターに宿泊したりということで関わらせていただいたんですけども、浜益ベースができて、実際に滞在して活動ができるようになりました。

浜益ベースを整備したことで、滞在前提のプログラムができるようになったり、浜益での暮らしを楽しめるようになったり、ezorock 内で別のプロジェクトも浜益ベースチーム以外の取り組みもあるんですけども、その他のプロジェクトチームが実際に使う場所になるということも実現しました。

当初は、写真のように建物がなかなか古めかしいところもあったんですけども、自分たちでDIYして、シャワーユニットを付けたり、ピカピカのキッチンにしたりして、住みやすい環境を整備していきました。この年にですね、浜益いただきますナイトというイベントを実施しました。こちらは、ちょうどこの年、コロナが流行ってきて人々のつながりが薄くなってきてしまった時に、浜益のお米1トンを北海道内の500人の若者に配って、浜益とのつながりを感じてもらおうとということで企画して実施したイベントになります。こちらは、浜益のお米と寺山ファームさんのビーフカレーを発送しまして、オンラインでつないで浜益の歴史だったり、産業だったりお祭りだったり、イチイの木についてお話をしたりしました。

この年に丁度、今木村果樹園の木村委員も来ておられるんですけども、木村果樹園さんのお手伝いプログラムがスタートしたのもこの時期になります。

翌年、集落の教科書の作成を2021年に行いました。こちらは、地域にまつわる良いこともそうでないことも、ちゃんと伝えたいということで作成して、実際にアンケートを行ったり、ワークショップで地域の方からお話を聞いたりして作成したものです。

【地域おこし協力隊員 多賀谷綾乃】

では、ここから現在編に入っていこうと思います。浜益ベースに関わる人たちということで、今日来てくれている、渡辺美咲さんと石田翔さんがいます。自己紹介も資料のコメントに書いておりますので、良かったらご覧ください。

2024年度から加入の新メンバーがいます。川本沙耶さんです。木が大好きな方です。今日は来られなかったのですが、コメントを読ませていただきます。札幌で木や森林のことを学ぶ大学生です。浜益に興味があって来てくれたということで、最近はサクラに興味があるようで春を楽しみにしております。また、ちょくちょく来る機会があると思いますので、見かけた際はよろしく願います。

現在メインで行っているのが、関係人口創出のための活動ということで、関係人口はそもそも何ですかということなんですけれども、観光に来る交流人口ではなくて、移住しに来た定住人口でもなくて、その間と呼ばれる立ち位置にあります。

地域が好きで遊びに来たり、お手伝いに来たり、様々な形で関わる人たちのことを関係人口と呼びます。浜益ベースは、そんな浜益が好きな人達を集めて日々活動を行っています。

活動の中身としては、地域を知るとか、もっと好きになるようなプログラムを作ろうということで、日々ミーティングを開いてみんなで話し合いながら企画を行っています。

こちらは札幌にある ezorock の事務所で浜益の食材をみんなに味わってもらおうという会です。

そして、2個目の目標としては、浜益という土地を知ってもらおうということです。郷土資料館を見に行ったりとか、地域の人から話を聞いたりして歴史を知ろう。あとは実際に足を運んで目で見ることも大事だよねということで、漁船の進水式やお祭りを見に行ってみたり、先日は浜益小劇場も見に行ってきました。それから、ふるさと祭りやスノーシューツアーなどのお手伝いにも参加してくれています。先ほどの説明にも出てきました、集落の教科書の改訂ですね。今年度は、お話を2名の方から聞くことができたのですが、それ以降の動きが停滞してしまったので、次年度はこども、もう少し力を入れて進めていきたいなと思っています。

お祭り関係の情報は不足しているので、この辺は集めたいなと思っています。皆さんにもご協力を仰ぐかと思いますが、その時はよろしく願います。

そして、先ほどの写真にも出てきていた、我々が活動拠点にしている浜益ベースです。ここを快適に、サステナブルに使えるようにしようということで整備を行っています。写真は隙間を埋めてみたり、模様替えをしてみたり、床にワックスをかけたりしている写真です。

なぜ、サステナブルを目指すのかということなんですけれども、かつて陸の孤島と呼ばれていた浜益は食材・エネルギー・技術など地域内の循環が活発というところに興味を持ちまして、地域性を活かして、田舎暮らしを確立してモデル化したいと考えております。

育てて食べる食の循環ということで、コンポストを作りまして、生ごみを堆肥化して、キュウリ、トマトをこの夏は育ててきました。前に来た時よりも大きくなっているねとか、次来るときには実がついているかなという話をしながら、消費だけではなくて生み出す力を大切にしていきたいという思いで、この植物を育てるという取り組みを行いました。

我慢しない。でもサステナブルというところで、お家が寒かったので、二重窓を設置している写真です。

ベースをちょっと身近にということで、パッと見て浜益ベースはあれかとわかるように、ウィンドウサインを描いてみたり、物置に眠っていた木材を使って看板、表札を作ってみました。

そしてここからは浜益ベースの活用事例ということで、浜益ベースチーム以外の活動事例を紹介したいと思います。こちらは EZOWOLF STORY というチームがありまして、捨てられてしまうエゾシカの皮を活用しようというチームです。浜益でも作業をしたり、木村委員からエゾシカ皮を頂いたりとか、色々取り組んでいます。いつもありがとうございます。このような感じで、実際に作業している様子を資料に載せています。余分な肉や脂をそぎ落としているところです。これは、活動後の集合写真ということで浜益の食材を浜益に来て食べてもらおうというプログラムの際の写真です。下の写真は、活動後にみんなでバーベキューをした時の写真です。浜益の海の幸をいっぱい食べて、おいしいねと大変盛り上がりました。2023年度、ベースを訪れた人数は延べ197人。そのうち宿泊した人が延べ83人、そのうち地域住民の方が延べ17人ということで、1年間でたくさんの人々に訪れていただきました。これからどんどん増やしていけたらなと思っています。

【NPO 法人 ezorock 渡辺光咲】

ここから、浜益ベースチームのこれからについて少しお話をさせていただきます。私たちは浜益ベースを浜益の入り口になるような場所にしていきたいと考えています。私たちの大きな目標と方向性として、浜益という地域の魅力を発信して、浜益のことを賑やかす仲間を増やしたいというのがあります。そのために、浜益外の方が浜益に関わることができる動きを作っていきたいと思っています。その動きをきっかけとして、浜益に来た人を浜益ベースで受け入れることで、浜益ベースが実際に浜益に関わるための入り口になるようにしていきたいと考えています。

では、具体的にどんなことをしていくのかというところで、今回は3つ挙げています。

地域のことを知ることができる活動と浜益の魅力を感じることができるプログラムと地域のイベントへの参加をもっと行っていきたいと考えています。

まず、地域のことを知ることができる活動ということで、みなさんに直接浜益のことを聞く機会を今年度は増やしていきたいと思っています。浜益のこれまでの歴史だったり、特産品であったり、浜益の人だったり、土地や地域のことだったりみなさんはたくさんご存じだと思うので、直接お話を伺いたいと思っています。みなさんから聞いたことを私たちが外に発信することで、浜益ってこういうところなんだよ。みんなも来てねっていうふうに呼びかけていきたいと思っています。

二つ目の、浜益の魅力を感じることができるプログラムですが、浜益には都会にいるとすることができないことがたくさんあると思っています。例えば、資料にも書いているんですが、綺麗な海を歩いて見に行けたり、夜に外に出てみるとたくさんの星が見られたり、耳を澄ませてみると自然の音が聞こえてきたり、たくさんの魅力があると思っています、私も浜益のこういう環境が好きで浜益に通うようになりました。このように、浜益に来ることによって感じられる環境だったり、感じることができる魅力が伝わるようなプログラムを、私たちが作っていきたいと思っています。

加えて、浜益ベースで再生可能エネルギーの活用も行っていきたいと考えています。木材を使って暖房や給湯などができる木質バイオマスボイラーや、太陽光パネルの設置も検討している最中です。設置できた際には、浜益のみなさんにも是非お披露目させてほしいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。そして、ベースが浜益の外の人に来るところだけではなく、浜益の人もみんなが集まる場所にしていきたいと思っています。

最後は地域イベントへの参加というところですが、ここまで自分たちが創るプログラムのことを話してきましたが、このベースチーム独自の活動だけではなくてですね、浜益の地域のイベントだったり、地域の行事にも積極的に参加させていただきたいと思っています。今年度は、ふるさと祭りの設営や、わかもん会のティラノレースにお手伝いとして参加させていただきました。先ほどもありましたが、2月に行われたスノーシューで行くイチイの木ツアーのお手伝いもさせていただきました。来年度も是非、色々な地域の活動だったり、イベントへの参加、そしてお手伝いをさせてください。そこでですね、浜益の人と会う機会だったり、話す機会をどんどん増やしていきたいと思っています。

大分大まかな説明になってしまいましたが、このようなことをこれからも私たちは行っていきたいと考えています。

そして最後になりますが、様々な活動を作り出すこと、そして参加することを通して、浜益のことを私たちも一緒に考えていきたいと、考えさせてほしいと思っています。まずは、浜益ベースとか、私たちチームのことを知っていただくところから、私たちも頑張っていこうと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、このような時間を取っていただき本当にありがとうございました。以上で発表を終わります。

【渡邊会長】

ezorockの浜益ベースチームの皆様、そして多賀谷協力隊員、発表ありがとうございました。ただいま、取り組みについて報告がございましたけれども、委員の皆様から何かご質問等ありますか。

【徳地委員】

質問といわれても私は関わっているので、ありがとうございますという気持ちです。

【柿岡委員】

何でもやりたいですか？

【NPO 法人 ezorock 浜益ベースチーム一同】

やりたいです。

【渡邊会長】

その状況に応じてという答えをしておくとも後々困らないかと思いますが、積極的に取り組んでくださるということです。

他に何かありませんか。

なければ、報告事項の2つ目に入っていきたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】

報告事項2つ目、令和6年度地域おこし協力隊の応募状況等について報告いたします。

本年1月の地域協議会が悪天候のため、書面開催にて提案させていただいた地域おこし協力隊募

集要項のとおり、令和6年2月29日まで令和6年度の地域おこし協力隊の募集を行って参りましたが、問い合わせが1件ありました。しかし、応募へはつながりませんでした。

今後、再度の募集については厚田支所とも協力しつつ、石狩北部地区で色々関われる方々も含めて、厚田と協力しながらおためし協力隊、インターン制度も活用して応募者獲得へ向けて積極的に取り組んで参りたいと考えております。私からは以上です。

【渡邊会長】

ただいま、令和6年度の地域おこし協力隊の募集状況について事務局から報告がありました。委員の皆様からご質問等ございますか。

【徳地委員】

募集方法はどの媒体を使いましたか。

【事務局】

媒体は、さっぽろ圏の広告と SMOUT、東京事務所の方にご協力いただいて様々な場所にチラシを配架していただきました。市のホームページでも PR を行っています。

【徳地委員】

問い合わせは、どの媒体からですか。

【事務局】

SMOUT からでした。かなり気軽な形でのお問い合わせでした。

【徳地委員】

呼びかけるならやっぱり SMOUT だね。どう活用していくかで、反応が全然変わってくると思っているので、今後の募集についても使い方を勉強しつつ、一緒にやっていけたらなと思います。

【事務局】

はい。ありがとうございます。

【渡邊会長】

他にございませんか。

なければ、地域おこし協力隊については、引き続きインターン制度やおためし協力隊を活用しながら、応募者獲得に向けて積極的に取り組んでいってもらいたいと思います。

次に、3つ目の2月1日開催の区民説明会の内容について事務局から説明をお願いします。

【事務局】

報告事項3つ目、2月1日開催の区民説明会の内容について報告いたします。説明会の開催概要と書いてある資料をご覧ください。

2月1日18時からきらりにて区民説明会を開催しまして、当日は悪天候にもかかわらず、協議会委員4名を含む19名の区民の方々が参加しました。

市役所からは企画課厚田浜益担当がリモート参加していただき、浜益支所から支所長をはじめ地域振興課職員が対応しました。

一通り説明を行い、質疑応答の場面において、区民の皆さんからいただいた質問や意見のうち、地域自治区の終了に関する部分について、地域自治区制度の活用を終わらせず継続してはどうかというご意見に関しては、地域自治区設置時の目的については「合併後の地域課題への対応、円滑な合併に資すること」でしたが、平成26年度と令和元年度の2回の延長の際には「災害発生により延長された合併特例債を石狩市でも活用するため」が目的となっております。

そのため、合併特例債の活用ができないとなれば、合併特例法上の地域自治区は、前回の延長時に定めた期限である令和8年3月末において終了するものです。

市は現在の地域自治区が終了しても法令や石狩市自治基本条例を基に、地域協議会の役割や、支所や出張所を変わらず残すことが可能であり、住民の生活や自治の仕組みを衰退させることはあってはならないと認識しています。

また、これまでの協議会の中でもたびたび話題に上がっていた地方自治法上の地域自治区については、石狩市全域において地域自治区制度を導入しなければならない制度であり、厚田、浜益両区

においては既存の地域自治区制度というものがあって対応可能ではあるものの、旧石狩市域での実証の状況や、石狩市自治基本条例によるまちづくりを進めていくため、それぞれの地域に合った自治を築いていくこととしまして導入をしません。

また、合併後のお金の使い道等に関する資料要求として、合併特例債の金額や使用目的、地方交付税の資料に関しては、今回の地域自治区の設置期限を迎えることによる諮問の内容に直接関係が無いものと判断し、私たち事務局としては資料の要望は行う必要はないと考えます。

また、支所の機能に関係することについて、人数の維持や機能の充実に関する意見については、これは貴重な意見として答申に反映させる材料としたいと思っています。

最後に答申をまとめるまでの今後のスケジュールですが、本日の地域協議会以降、3月28日に2回目の説明会を開催しまして、住所表記に関するアンケートを4月上旬から下旬で行いたいと思います。4月下旬に開催予定の地域協議会において、「協議会の機能」「支所機能について」説明会で頂いた区民の皆様の意見を勘案し、事務局が答申原案を皆様に提示してご意見をいただきまして、5月下旬に開催予定の地域協議会では、アンケートの結果を踏まえまして「住所表示」の答申案を提示させていただき、最終的な答申の確定を行いたいと考えております。私からは以上です。

【渡邊会長】

ただいま、2月1日開催の区民説明会の内容、それから協議事項のほうにも触れていますけれども、これからのスケジュール等について事務局から説明がありました。

これらにつきまして、何か質問等ございますか。

【柿岡委員】

3月28日に行われる説明会に向けて、資料の2ページ目に書いてある地域自治区廃止に伴うメリットとデメリットの提示というのは、きっちり裏表のないものを提示していただければなと思っています。

【事務局】

今現在のところ、厚田でも説明会が開催されております。その中で、メリットとデメリットの部分というか、実質的に地域自治区が終了するとしても、地域協議会と支所の機能については、変わらない、残しますというところで、メリットとデメリットの部分は発生しないと思っています。

【柿岡委員】

さっき言っていた、地域の維持に努めますということだけど、きつとこの人口減少の自然減少は歯止めはきかないものだし、ここも拡大解釈されてしまって、人口が減ってしまうということは維持できてないじゃないかっていうことにもなりうると思います。その辺の現状認識と、将来こうなるであろうというイメージできるようなデータとかを基に、それを踏まえたメリットとデメリットはありませんよっていうように説明してもらえた方が、きつとみんなも誤解も生まずに話は進んでいくんじゃないのかなと思います。

あと、支所機能に関しても、きつとこの先絶対変わらないとは言い切れないし思ってもいないので、そこもあまり、きれいごとでまとめすぎて言っちゃうと、また炎上しちゃうんじゃないかなと思います。

【事務局】

まず、人口減少に基づいた地域自治の維持、地域の維持の部分に関しては、今回の諮問、答申が終わった後の実際の地域づくりの部分で非常に重要なファクターになってくると思います。諮問、答申をまとめる段階としては、私たちの立場でこういつてしまうのもおこがましいのですが、基本的に地域協議会の役割というのは、絶対に地域に必要なものですよというようになるのかなと思っています。支所機能については、前回の説明会で本当に貴重な意見を頂いていて、災害対応を含めて、機能をどうするというよりも、頭数が欲しい。実際に区民が安心して暮らすために、何人の役所の人間が必要なのかということも勘案して欲しいとのことだったので、重要な意見だと考えております。それも加味したうえで、答申案を皆さんと話し合う機会としていきたいと思っています。

実際の地域づくりに関しては、答申をまとめた後、実際に地域自治区終了までの期間の間に、スケジュールをしっかりと決めたいと、地域住民も学びながら、話し合いながら、住民主導で動いていく形が理想なのかなと私個人では思っておりますので、学びの機会をどんどんと作っていきたくて考えています。

【柿岡委員】

わかりました。

【渡邊会長】

人口推計につきまして、過疎計画の中でもですね、これまで協議会の中でも地域自治区があるうがなかるうが、減少して行くという推計が出ております。ですから、地域自治区が無くなったから減少していくとか、地域自治区があれば歯止めがかかるとかそういうことではないと思います。これからの地域づくりをどういった仕組みでどういった形で進めていくのかというのが大切になってくると思います。これからの取り組みにかかっていると思います。

【徳地委員】

未だに、説明が足りていないと感じています。浜益区が無くなるという、そのことだけが目立ってしまって、それに合わせて支所の機能もという話になってしまったから、未だに説明が足りてなくて、「あ、無くなるんだな」としか思っていない人達ばかりなので、答申に関してはちゃんとやるんだけど、もっと情報発信をしてください。それじゃないとみんなわかっていないので、本当にわかっていないので困っています。

【事務局】

実際にこれからは、区民の方々にもしっかり考えていただく、そして参加してもらおうという機会を増やさなければいけないので、私たちが検討している内容、支所が検討している内容、市からの提案内容としてフィードバックしてきたものは、しっかりと皆さんに伝えながら、何を見るべきかも含めてPRしていかなければならないと考えています。

先ほど説明させていただいた学びの場の中では、協議会委員とかの区別なく区民の皆さんが話す機会の中で、講習やワークショップを行う機会を設けてまいりたいと考えております。これから先頑張ってもらいます。よろしくお祈りします。

【徳地委員】

よろしくお祈りします。ペーパー1枚出しておしまいとかそういう感じではなく、もうちょっと皆さんに知れ渡るようなことを色々考えていきましょう。

動画配信も現状見られない人も、子どもに聞くからやっても面白いなと言う高齢者の方もいたので、そういうのを考えても良いかと思えます。

【事務局】

説明資料に関して、パワーポイントに音声を入れたものをインターネット環境に置いてみられるようにしておくという方法はあるかと思っています。よろしくお祈りします。

【渡邊会長】

私はアナログ派なので、活字を見なければ頭に入ってきません。情報を全戸配布で回してもらえたら、じっくり時間をかけて見ることができるのでそちらを希望したいです。

【徳地委員】

全戸配布で細かい字が並んでいるものだけでなく、概要版、要約版みたいなもの、読みやすいものを付けてくれるとありがたいと思います。

【渡邊会長】

ただ、文章だけのものではなくということですね。

【事務局】

様々な媒体、そしてパッと見た印象でわかるような資料を勉強しながら試行錯誤していきたいと思えます。

4 協議事項

【渡邊会長】

それでは、続いて協議事項、今後の地域のあり方に関する情報交換について、資料の説明を事務局からお願いいたします。

【事務局】

報告事項でも触れさせていただきましたが、3月28日に再度仕切り直しの説明会を行います。回覧配布日の関係上、委員の皆様には事前説明をさせていただいて、昨日全戸配布の手配をさせていただきました。その案内文書を資料として配布しております。

今回の説明会については、3つの諮問事項について区民の皆さんのご意見をいただく場とするル

ールを設定したうえで開催させていただきます。そのため、諮問内容に直接関係ないご意見等については、報告事項の中で整理したとおりの取り扱いとさせていただきます。説明会の場でその場で回答することは控え、必要があれば後日個別に対応して参りたいと考えております。

説明資料については、本日配布いたしました本庁企画課厚田浜益担当で作成していただいた資料に基づいて、諮問内容について説明頂きます。この資料は、厚田の説明会でも使用されている資料で、共通のものになります。

次に、住所表記についての答申に関わる判断材料として行うアンケートについてです。アンケートの対象は、浜益区に住所を有する、中学生以上としたいと考えております。アンケートの実施には、世帯や年齢など、様々な個人情報の取扱いが必要となるため、対象者のデータ作成、調査票の作成、発送準備などアンケート調査の実施について、協議会から市へ依頼したいと思っております。

協議会としては、アンケートの配布、回収について、自治会のご協力をいただけるよう手配して参りたいと思っております。

予定では4月上旬に配布させていただいて、4月下旬までの期限とし、回答を得て参りたいと考えております。回収後早急に結果を取りまとめまして、地域協議会で報告できるよう努めてまいります。私からは以上です。

【渡邊会長】

ただいま、事務局から説明がございました。説明会当日の説明に関しては、本日配布した資料に基づいて、本庁企画課厚田浜益担当から説明していただくということですのでよろしいですね。よろしくお祈りいたします。

ただいまの事務局からの説明内容について、ご質問やご意見はございますか。

【徳地委員】

アンケートの文書の内容は大体決まっていますか。記載式ではなく選択式にする形ですか。

【事務局】

解答については、地域の名称を残すか、残さないかの2択でチェックして頂く方式で、世帯ごとの回答ではなく、個人ごとに、中学生以上を対象にアンケートを行います。

一つの家の中で、中学生以上の方が3人居れば、3人の回答を1世帯からいただくこととなります。

【徳地委員】

2択？浜益を住所の中に入れるか入れないかですか？

【渡邊会長】

石狩市浜益川下とか、石狩市川下のどちらかということですね。

【徳地委員】

浜益区浜益については、石狩市浜益となるんですよ。

【事務局】

浜益地区に関しては、どちらの場合でも石狩市浜益となります。

【柿岡委員】

アンケート様式のたたき台について、確認させてもらうことは可能ですか？

【事務局】

現在、企画課厚田浜益担当と地域振興課で、厚田と浜益の様式を共通のものとするかも含めて調整しているところです。個人情報の取り扱いに対応して封筒の形式も調整中です。

ですので、様式自体は世帯主のお名前と世帯員が入ったものがそれぞれ1枚ずつ入ったもので、地域自治区終了に伴って、集落の名前「浜益」を残すか、残さないかのイメージにはなると思っております。

【柿岡委員】

このアンケートの項目に対してこうしてはどうかという地域協議会の意見の吸い上げはする予定はありますか？こういう質問項目があるなら、こういうふうに質問内容を変えたほうがいいのか、実際にアンケートに答える側からの意見も出てくるかもしれないので。

【渡邊会長】

時間的に確認する時間とかありますか？

【事務局】

時間的には難しいのですが、説明会で使われる資料の12ページのところに、今後の住所表示についてというところがあります。こちらの答申という枠に囲われた中の地域の名称を残したい、その場合には石狩市浜益川下〇〇番地、残さない場合は石狩市川下〇〇番地、この2択になります。

自治区終了に伴ってこういう理由で住所は変更になります、どちらかを選んでくださいという内容になりますので、シンプルではあると思います。ただ、協議会の委員の皆さんに提示することはできても、ご意見を吸い上げる協議時間が取れない可能性はあります。

今回説明に回らせていただいたように、説明に回ることも可能ですので、アンケート様式ができ次第相談させていただければと思います。よろしくお願いします。

【柿岡委員】

はいわかりました。

【羽立委員】

私はこれで大丈夫だと思います。簡潔で皆様がわかりやすいというのが一番ですし、迷わないという住所が一番ですよ。あまりそこで複雑にしたり、要らないものを付けたりというふうにする、また新しい住所を書くときに、間違えて前の住所を書くこともあり得ますよね。私たちがだんだん高齢化が進んでいますのでそういうことを考えると、本当に単純に明快に、こんな住所が望ましいと思います。こんな方法で進めてください。

【事務局】

ありがとうございます。

【渡邊会長】

そういうことでどうですか、事務局に任せたらどうでしょう。

やっぱり確認して修正したいですか。

【事務局】

今、調整はしていますけれども、要は協議会の場を設けて合意を取るということは難しいかもしれませんが、3月28日の説明会の時に、地域協議会のメンバーに、このような形式で行うことを説明することは可能だと思います。調整が間に合えばなのですが。

【渡邊会長】

では28日は委員全員出席していただくことにして、協議会の委員の皆さんにアンケート様式についてお知らせすることでよろしいですか。

他にございませんか。

無いようですので、3月28日の説明会については、説明の通り進めていただければと思います。協議事項についてはこの辺で終了いたします。

5 その他

【渡邊会長】

それではその他に入ります。皆さんからこの場を使って連絡事項や話題提供等ございませんか。

【羽立委員】

以前に幌地区において孤独死の事案が発生したことを情報提供させていただきました。やはり、地域で見守りをすることが大切であるということを感じて、私自身ももう起こらないだろうなと思っていたのですが、残念なことにまた幌地区で、孤独死ということがありました。私も散歩をしたり、犬と一緒に歩いたりしたときに、空き家の場所や独居の方だとかを確認しながら、自分のできる範囲で見守りをしているつもりですが、範囲が広くて見守り切れないという現状です。

また、何かの約束が私にあるわけでもないのに、歩いた先でチャイムを押して安否確認のため入ることもできずにスルーしている現状です。この状況を打開するために、見守りをするためにどうしたらいいかという案があれば教えていただきたいと思っています。

【事務局】

全国の事例では、郵便局や宅配業をしている人たちに、見守りの情報を共有しながらということもありますし、DXとかで言うと水道のメーターが動いてるとか、電気のメーターが動いているとかで、生きていうちに発見はできないかもしれないけれど、気づくようなことに取り組んでいるところは事例としてあります。

【羽立委員】

地区ごとに、いつも動いてもらえるような人を配置することはないですね。

【事務局】

誰がやるという当事者がいれば、総合事業とかいろいろな補助を活用しながらできるかと思うんですけど、地域の人材不足でなかなか手が回らないという現状があるので、ワガゴト化というか、誰がそれをやれるのかというところが見つかれば方法はあるかと思います。

【羽立委員】

かなり前なのですが、そういう取り組みはありませんでしたか？

【渡邊会長】

今、民生児童委員の業務や役割というのは、相談を受けるというだけで見回りとかは違いましたか。

【事務局】

常時見守りというよりは、周りの方が気付いていただいて相談を受ける窓口というのが民生児童委員となっています。

【渡邊会長】

隣近所の方々が普段から付き合いがなくても、夜になっても電気がつかないだとか、そういった異変にお互いに目を配らせるとか。

【徳地委員】

生きていますよということで旗を出すとか、今日も元気ですの旗。

【渡邊会長】

今回の方は、あまり地域の人とのかかわりを持っていなかった方ですね。

【羽立委員】

やはり、2件とも自治会長に連絡をしました。

【木村委員】

どちらの方も、あまり地域の方と関わっていなかったですね。年を取っていくにしたがって、地域からちょっと遠ざかっていました。今回亡くなられた方も前は私も親しくしていたんですけど、ただ、いつ伺っても玄関が閉ざされていて、電話しても出なかったり、周りの方はみんな心配しながら過ごしていたんですけど、全然反応が返ってこなくて危機感を感じていたんだけど、やっぱりねという結果になってしまったので、非常に残念なことです。

【事務局】

これは私の個人的な経験からのお話ですが、旧石狩市域でもまったく同じようなことが発生しています。浜益よりも、人の付き合い、隣近所との付き合いが希薄なんですね。気づかれないということが凄く多くて、気が付いたら救急車が来ているということが多いです。それを見守ろうとしても、当事者が受け入れない場合もありタイミングを見逃すことが多いということで、行政サービスの中の一例としては、気高齢者の方々が自分で倒れた時に緊急通報できるシステムはありました。ただ、倒れた時にそのシステムを使えるかどうかなんです。私も職務で色々な家を訪問した際に、約束した時間に呼び鈴を鳴らしても出てこれなかった。裏に回って窓から見てみたら倒れていたということもありました。実際にそれを根本的に解決する方法はあるのかというと、難しいのかもしれませんが、浜益ならではの人の繋がりというのを利用していく中で、仕組みづくりということができるかもしれないと思います。

外的要因も含めて、先ほど事務局からも説明がありましたけれども、郵便局や宅配便の方々、郵便物がなければどうなのかという部分も含めて、あとヤクルトの配達員も含めて様々な方法でシステム化できていけば、高齢者が多い地区で一人でも容体の急変や、独居で居宅で生活することが難しい方の情報が集められたりするのかなと思っています。個人的な意見ですいません。

【渡邊会長】

また、身寄りがなければ宅配もないだろうからね。家族がいれば、家族の人に連絡してもらおうということもあるだろうけれども。だからやっぱり、近所の方が普段から気を付けて見守りしてもらえないのかな、最後は。あとは、水道ですね。水は絶対使うので。電機はつけっぱなしで倒れる場合もあるから。

【事務局】

今の水道は、人を雇って検針をやっているに任せています。メーターを見に行ってもらい、ハンディにデータを打ち込んでもらってという作業をやらせているんですけど、近い将来、水道のメーターがガスと一緒に検針員さんが検針に行かなくても、データを飛ばして集約するところまで、これから浸透していくと思います。市でもお試して、何件かピックアップして実際検証をしている

ところではあるので、そういうシステムを活用して、例えば長い間使用されていないとか、そういう仕組みを活用しながら、見守りするということも考えられると思います。一番いいのは地域とのつながりという中で、そういう環境が保てればいいんですけど、なかなか今の時代難しくなってきましたので、今後のことを考えていければいいのかなと思います。

【羽立委員】

以前防災無線の件でお話をさせていただきました。せっかく鳴り響いてはいるんですが、聞こえないという。それで、会長から携帯電話を操作して、それを高齢者に操作できるようにして、そこから情報を得たらどうでしょうかという回答を頂きました。

それで、会う方会う方にこういうふうなことを伝えたら、操作できますかと問いかけたところ、まず、携帯電話を持っていませんという方もいらっしゃいました。幌地区は携帯電話をお持ちでない方が多いです。

そして、携帯電話は、電話を受けることと、電話をかけることしかしません。それと、操作をしてまでも聞きませんということでした。そういう回答を頂いたということは、やはり、防災無線を室内から聞こえるものと考えていただけでないか。そして、事例なのですが、長沼町でラジオのようなものを配布していてスイッチを入れると、そこから防災無線が流れてきて、その地区の行事等もそこから知ることができる。それは、必要な方に無料配布されています。必要が無くなればいつでも返却できる。そのような事例がありました。是非、前向きに考えていただきたいというのと、浜益でも、買ってまでもいいから付けてほしいというのを切にお願いされてきましたので、この場でお話させていただきました。前向きにご検討ください。

【渡邊会長】

多分、その点については、自治会連合会の中でもそのような話題が出ているので、今年度の議題として話し合っていこうと考えておりますので、検討していきたいなと考えています。

去年は熊野防災無線等が多かったので、自治会連合会として話し合いをして要望書を上げようと考えています。以前要望を上げた際には、石狩市ではDX関係のいろいろな仕組みがあるので、そちらを活用して欲しいという回答だったんですけども、なかなかやはり、高齢者の方が多いこともあって、端末操作への対応が難しいことも踏まえて再度検討していきたいと思います。

【事務局】

過去には、防災無線が聞こえないということで、様々なツールの活用で対応していくという話し合っているんですけど、その時の答えとしては、発信ツールもあるし、そちらを活用して取り組みましょうということだったと思います。ただ、今、デジタルトランスフォーメーションとか様々な新しいものに切り替わって来ていますし、要望として再度、今の時点でできることというのは、議論する余地はあるかと思います。まだ、個人的な考えですが、回覧板のアプリを使用したデジタル化等に取り組んでいる市町村もありますし、その中に防災機能が入っているものがありますし、スマートフォン以外でもそれを見ることができたりとか、そういった部分も今は進化して、色々な会社で作っています。そういうところの勉強を始めても良いかもしれないと思います。個人的な意見なんですけど。

【木村委員】

年齢が高い方だと、どうしても対応が難しい方も多いと思います。

【事務局】

簡単なボタンで、操作して見るというようなシステムがあるんですよね。回覧を配るのも、車もないし、遠いところは、そういうものを活用したりしている町もあります。

【渡邊会長】

持っていても、使えないとどうしようもないんですよね。

【羽立委員】

回覧板を回すのも、お隣が遠くて回覧板は要りませんという方もいらっしゃるんですよね。そんな中に、やはり回覧板の中にはすごく大切なことが含まれているので。

【渡邊会長】

いずれにしても、自治会連合会の中で検討していきたいと思いますのでよろしく願いいたします。

他にございませんか。

【徳地委員】

報告ですが、浜ワークに4月1日から3人増える予定です。一人が札幌から移住してくる方。あと、地域おこし協力隊の井上優太さんと浜益在住の山本直樹くんが入る予定です。職員が合計5人

に増える予定で、これからも頑張っていきたいと思います。あと、浜益コミュニティセンターきらりの管理を浜ワークが委託を受ける予定です。人数も少なく大変なのですが、どうかサービスが低下しないように、人を回していくつもりですのでよろしくお願いします。

【渡邊会長】

はい。ありがとうございます。浜ワークさんには人材確保の部分でこれからも頑張っていって欲しいと思います。

【柿岡委員】

4月初めころから川下の岩浅さんの家を使って、浜益で活動しているクリエイターさんの作品や、農家さんの自社製品を販売したり展示したりし、時々地域の物を持ってきて、産直市場のようなことをしようという企画が今立ち上がっています。私もお手伝いさせてもらっていて、中心メンバーが、作りたがりのいちこさんというアーティスト名の佐立一子さんと、籠ノ鳥子さんというアーティスト名の田口美千代さん、久慈農場の久慈麻結さんがメインで、商品や作品などを展示していくそうです。時々私も、浜 T を置かせてもらいます。そこが、買い物もできるし展示もしているので、地域の方が気軽に立ち寄れるコミュニティスペース兼、夏場の観光客の方が立ち寄れる施設が無いということで、簡易的ながら何か色々試行錯誤しながらやっていけたらいいねと、小さな拠点づくりに取り組んでいますので、皆様今後の活動もご注目ください。

【渡邊会長】

営業開始時期とか、営業時間は決まっていますか。

【柿岡委員】

現在は、4月5日を目途に営業開始できたらいいねと思っております。毎週金、土、日の10時から15時ぐらいを考えているんですけど、皆さんそれぞれ仕事があったり、時間がままたらない人が多いので、なるべく開店できるような形でやっていきたいねと話しています。それが形になって、通常営業できるようになれば事業化をして、夏に訪れる若い人をアルバイトとして手伝ってもらったりするのも良いんじゃないかなと思っています。是非皆さんお立ち寄りください。よろしくお願いいたします。

【事務局】

地方競馬のジョッキーで浜益出身の阿岸潤一朗さんが3月30日の土曜日、サテライト石狩でトークショーをやります。回覧でも紹介していますが、午後2時からトークショーが始まるそうなので、お時間がある方は応援に行ってくださいというお願いです。

【渡邊会長】

他にございませんか。

【事務局】

細田校長に代わりまして、本で行われました浜益中学校の卒業式についてお知らせしたいと思います。4人の卒業生が巣立ちました。男子1名、女子3名が卒業を迎えまして、卒業証書を授与された後に、それぞれ卒業生の皆さんが、在校生、保護者、先生方宛の手紙を一人ひとり読み上げるという素敵な時間が流れた卒業式でした。卒業生も生徒玄関前の卒業式の看板の周りで名残惜しそうに記念撮影を取っている姿が微笑ましかったので、広報いしかりのまちの話題でも取り上げたいと思っております。

【徳田委員】

浜益小学校でも明後日（3月16日）第26回の卒業式があります。コロナも5類に移行して、地域の方にもご案内しておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6 次回の開催日程について

【渡邊会長】

次回の開催日程について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

次回の地域協議会は、4月下旬を予定しております。日程の確定や事前資料につきましては改めてご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

7 閉 会

【渡邊会長】

では、以上をもちまして第8回地域協議会を閉会いたします。長時間お疲れ様でした。

令和6年3月27日 議事録確定

石狩市浜益区地域協議会

会長 渡 邊 隆 之